



The  
Liquid  
Software  
Company

## プレスリリース

※本プレスリリースは、2021年9月13日（現地時間）に JFrog Ltd. が発表したプレスリリースの翻訳版です。原文（英語）は[こちら](#)をご参照ください。

# JFrog が Upswift を買収、IoT デバイスの ソフトウェアアップデートとコンテナへのデプロイを開発者に提供 業界初、DevOps ライフサイクルを通してコネクテッドデバイスを安全に利用するため 360 度の包括的な管理を実現するソリューションを提供

**東京発（2021年9月21日）** — 水が流れるようにソフトウェアを継続的にアップデートする Liquid Software（リキッド・ソフトウェア）というビジョンを掲げる DevOps カンパニーである企業 JFrog Japan 株式会社（本社：東京都港区、ジャパン・ジェネラル・マネージャー：田中克典、以下、JFrog K.K.）の親会社である JFrog Ltd.（以下 JFrog）（NASDAQ: FROG）は、現地時間（サニーベール）9月13日に、開発者向けコネクテッド・デバイス管理ソフトウェアの開発を行う [Upswift](#) 社の買収を発表しました。統合後は、現在の IoT ソフトウェアのサイロ化されてしまっている状態と、依存性スキャン、CI/CD、アーティファクト管理、アプリケーション・セキュリティのシフトレフト、ソフトウェア・デリバリーなどの一般的に望ましい DevOps プロセスとの間にあるギャップを埋める、業界初の完全な Development-to-Device プラットフォームの提供を目指しています。これにより開発者は最新の CI/CD と SecOps のワークフローをコネクテッドデバイスの世界に接続し、ソフトウェア作成からデバイスにデプロイするまで完全なプロセスを提供できるようになります。

今回の買収は、お客様にとって開発環境からクラウドそしてエンドデバイスに至るまでを自動化することにより、デジタルトランスフォーメーションを実現することを意味します。

JFrog の共同創業者兼 CEO の Shlomi Ben Haim（シュロミ・ベン・ハイム）は次のように述べています。「今回の買収は、技術、人材、市場の可能性など、さまざまなレベルでとても喜ばしいことです。DevOps と IoT の世界を初めて結びつけ、開発者にとってデジタルトランスフォーメーションを現実のものとするだけでなく、イノベーションに情熱を持ち、無限のスケールを持つ素晴らしいチームと力を合わせることができます。これは、世界のソフトウェアアップデートを強力にサポートする企業になるという Liquid Software のビジョンに向けたさらなる大きな飛躍であり、当社の製品ロードマップを拡大させ新たな市場機会を開くものです」

多くの企業にとって、デバイスフリート（Device Fleet – デバイス群）やエッジアプリケーションの遠隔管理（OTA アップデート、セキュリティ、モニタリング、制御など）は、容易ではありません。予想では、2026 年までに世界中で約 240 億台の IoT デバイスが使用され、コネクテッドデバイスの管理、セキュリティ、ソフトウェアアップデートの市場規模は約 160 億米ドル<sup>\*1</sup>に達すると見られています。商業用および消費者用デバイスの高度化と複雑化が進む中、クラウドベースの DevOps プラットフォームからコネクテッドデバイスを監視し、ア

アップデートするための高速で信頼性の高い安全な方法を持つことは必須です。

JFrog の共同創業者兼 CTO である Yoav Landman（ヨーブ・ランドマン）は次のように述べています。「今日のエッジおよび IoT デバイスのソフトウェアアップデートソリューションは、最新の CI/CD および DevOps ソフトウェア開発ライフサイクルから切り離され、特別でサイロ化されてしまった独自開発のものが大半です。同時に、DevOps ソリューションのほとんどは、分散したエッジや IoT 環境にソフトウェアアップデートのデリバリー・デプロイ、または継続的に管理するために構築されたものではありません。Upswift は開発者に特化したデバイス管理とソフトウェアアップデートのための技術を提供し、現在の DevOps においてワークフローの自動化や、開発者のエコシステムとの統合を容易に可能にすることで、デバイスへの継続的な配信を自然に行えるようになります」

両社の技術は、DevOps エンジニアや開発者がデバイスソフトウェアのリリースサイクル全体を安全に管理し、デプロイメントにかかる時間や運用上の負担を軽減することを目的としています。

統合された技術プラットフォームは次のような利点を提供します。

- ソフトウェア開発からデバイスへのアップデートを完全に自動化し、ビルド、セキュリティ、ディストリビューション、デバイスデプロイメントなどの DevOps ライフサイクルの完全な自動化を実現します。
- スケーラブルで開発者を主とした OTA アップデートを実行し、大規模なフリート（デバイス群）のエッジデバイスや IoT デバイスに対してアップデートを自動化します。
- セキュリティ機能を拡張し、幅広い IoT 環境に対応、可視性を広げ、リスクを監視し、デバイス上で見つかった脆弱性を修復します。
- IoT デバイスやエッジデバイス上でソフトウェアを直接アップデートし、分散したフリート全体にファイルシステムやコンテナのアップデートを確実に配信します。
- デバイスのアップデート管理とモニタリング機能により、デバイスの健全性、機能、およびアプリケーションをリアルタイムで監視します。
- リモートコントロール機能で、ブラウザや API を介したデバイスへの直接アクセスなど、分散したエッジでのリモートコントロールが可能になります
- ソフトウェア・パッケージ・リリースの完全な可視化により、デプロイメントやインクリメンタルアップデートを含む、完全な DevOps パイプラインによるリリースが可能になります。
- JFrog Platform との完全統合により、簡素化された安全なエッジへのソフトウェアリリースを可能します。

Upswift の創業者兼 CEO である Amit Ezer（アミット・エーザー）は次のように述べています。「より多くのインテリジェントなアプリケーションやデータ収集がエッジに移行する中で、DevOps とデバイス管理の融合は止められません。Upswift は、DevOps 分野のリーダーである JFrog と手を取り、開発者のデジタルトランスフォーメーションを促進し、末端のデバイスに至るまでのコンテナへのデプロイの橋渡しをする革新的な技術を市場に提供できることを嬉しく思います」

Upswift Platform は、あらゆる業界の顧客に対して大規模なリモート Linux & IoT デバイスの更新、制御、監視、セキュリティを支援しています。この度の発表により、Upswift のチームは即座に JFrog のチームの一員となります。

JFrog による Upswift の買収がもたらすメリットの詳細については、[JFrog のブログ](#)をご覧ください。

The JFrog Platform powered by Upswift の新しい IoT およびコネクテッドデバイス管理機能について、ウェビナーでご紹介します。

ウェビナー名：「JFrog and Upswift: Bringing IoT Software Updates to DevOps」

日時：2021 年 10 月 7 日（木）午前 10 時（太平洋標準時）

2021 年 10 月 8 日（金）午前 2 時 JST（日本時間）

詳細と登録（英語のみ）は[こちらから](#)

この取引の条件は開示されていません。この取引は、JFrog の 2021 年第 3 四半期および通期の業績に重大な影響を与えるものではありません。

\* [1] Menting, Michela. 「IoT Industry to Reach \$16 Billion by 2026」2021. <https://bit.ly/3k7Tvvx>. (参照 2021-9-13)

###

### JFrog Japan 株式会社について

JFrog Japan 株式会社は JFrog Ltd. (JFrog) の日本法人として 2018 年に設立。DevOps プラットフォームを開発した JFrog は、開発者のキーストロークから製品まで、ソフトウェアの流れをシームレスかつ安全に実現する「Liquid Software」というミッションを掲げています。エンドツーエンドでハイブリッドな JFrog Platform は、現代のソフトウェア開発組織が DevOps の力を完全に取り入れるために必要なツールと可視性を提供します。JFrog のユニバーサルなマルチクラウド DevOps プラットフォームは、AWS、Microsoft Azure、Google Cloud 上で、オープンソース、自己管理型、SaaS サービスとして利用できます。JFrog は何百万人ものユーザーと何千人もの顧客に信頼されています。その中には、ミッションクリティカルなソフトウェアデリバリーパイプラインを管理するために JFrog ソリューションをご活用いただいているフォーチュン 100 企業の大半が含まれています。詳細は [jfrog.com/ja](http://jfrog.com/ja) をご覧ください。

### Upswift について

[Upswift.io](http://Upswift.io) は、様々なエッジデバイスや IoT デバイスの継続的な監視、可視化、制御、安全な OTA (Over-The-Air) アップデートを実現するスケーラブルなクラウドベースのプラットフォームです。独自の技術により、エッジデバイスの状態、リソースの可用性、パフォーマンスを迅速に把握し、自動異常検知機能を備えたエッジデバイス監視のための初のエンド・ツー・エンドソリューションをプラグアンドプレイ設計で提供し、インテリジェントなエッジデバイスを大規模に展開・管理する際の複雑さを解消します。

### フォワード・ルッキング・ステートメント

本プレスリリースには、米国連邦証券法で定義されている「将来予想」に関する記述が含まれています。これには、JFrog の将来の財務実績、当社が参加している市場における当社の主導的地位、当社による Upswift.io の買収に関する期待（技術プラットフォームを組み合わせ、市場の需要を正確に予測し、それに応える能力など）、および Upswift の買収から期待される利益、革新性、相乗効果を実現する能力に関する記述が含まれますが、これらに限定されません。これらの将来の見通しに関する記述は、JFrog の現在の仮定、期待および信念に基づくものであり、JFrog の実際の結果、業績または成果が、将来の見通しに関する記述に明示または暗示されたものと著しく異なる可能性がある、重大なリスク、不確実性、仮定および

状況の変化の影響を受けます。

実際の結果が本プレスリリースに記載された内容と大きく異なる可能性がある要因は多数あります。Upswift およびその従業員を当社の既存の事業および文化に統合することに関連するリスク、当社の損失の歴史、当社の限られた営業実績、既存顧客を維持し、アップグレードする能力、新規顧客を獲得する能力、販売およびマーケティング能力を効果的に開発し、拡大する能力、セキュリティ侵害のリスク、当社の製品およびプラットフォーム機能に関連する中断または性能問題のリスク。急速に変化する技術や顧客のニーズに適応・対応する能力、当社が参入している市場で競争する能力、買収後に当社と Upswift がそれぞれの顧客に継続的なサービスを提供する能力、一般的な市場、政治、経済、ビジネスの状況、進行中の COVID-19 パンデミックの期間と不確実性などです。当社の実際の業績は、2021 年 2 月 12 日に提出された 2020 年 12 月 31 日を末日とする年次報告書（フォーム 10-K）、その後の 2021 年 5 月 7 日および 2021 年 8 月 6 日に提出された四半期報告書（フォーム 10-Q）、ならびに当社が随時 SEC に提出するその他の報告書など、米国証券取引委員会（SEC）に提出した書類に詳述されているリスクを含むがこれらに限定されない多くの要因により、将来の見通しに関する記述と大きく異なる可能性があります。将来の見通しに関する記述は、本プレスリリースの日付時点での当社の信念と仮定を示したものです。当社は、法律で義務付けられている場合を除き、これらの将来見通しに関する記述を更新する義務を負いません。

**<本件に関する報道関係者のお問い合わせ先>**

バーソン・コーン&ウルフ 広報代理 担当 阿部/コビリ  
TEL: 070-4504-0804 Email: yujiro.abe@bcw-global.com